

# 目地バリシート施工マニュアル

株式会社 白崎コーポレーション

## 施工前



施工前の状態

路面の状態、目地部分の隙間、発生雑草の種類によって、適切な前処理を選択する。  
(前処理の選択は裏面参照)

## 前処理



除草

目地から雑草が発生している場合は、施工前の処理として、除草を行う。



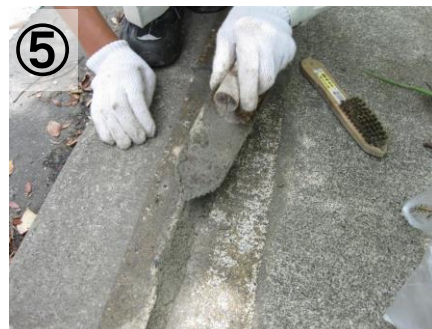
抜根除草・目地堆積物の処理

根力キなどを用いて、雑草の根や、目地部に堆積した土埃を除去する。  
※根かき作業の効率化に最適な機器があります。詳しくは営業までお問合せください。



路面清掃

刈り取った雑草や土埃をホウキ等で除去する。  
ワイヤーブラシを用いて路面にこびりついた土埃を清掃し、ブロワーなどを用いて除去を行う。



セメント充填

目地の隙間に目地バリセメントを充填する。  
(使用目安 0.2ℓ/m)  
目地を境に段差のある場合も、シート貼付後に隙間ができないよう、目地バリセメントを充填する。目地バリセメントは1袋に対し、水600mLを目安によく混練して使用する。



路面の処理

路面に凹凸や窪みがある場合は、目地バリセメント等を用いて、施工面が平らになるように処理を行う。  
広範囲に使用した際は硬化するまで十分な養生が必要。

## プライマー塗布



プライマー塗布

ラインチョークなどで位置だしを行い、施工面の砂埃を払い、刷毛を用いてプライマーを均一に塗布する。  
(使用目安 50mℓ/m)  
残ったプライマーは密封し、容器の記載に従い保管する。

## プライマーPR1-5L/15Lの養生(重要)

(塗布後の養生目安)  
夏期: 20分以上 冬期: 40分以上

施工時の気温や、路面状態(窪みにプライマーが溜まる)によって、養生時間は異なる。目地バリシートを貼り付ける前に、指で触り、乾燥を確認する。養生が足りないと、プライマーに含まれる溶剤により、目地バリシートに悪影響が出る(裏面参照)恐れがあるので、注意。

プライマーPR1-5L/15Lは水分を含むことにより性状が変わるため、目地バリシート貼付までに降雨があった場合には、路面乾燥後にプライマーの再塗布が必要となる。

## 目地バリシート貼付



貼付準備

プライマーが乾いたのを確認後、目地バリシートを拵げ、離形紙を順次剥がしていく。  
剥がす際は離形紙が破れないよう注意。



加熱

目地バリシートの裏面(離形紙の付いていた面)を、トーチランプ等を用いて加熱する。プライマーに引火する恐れがあるので、注意。  
(加熱の目安は、裏面参照)



貼付

加熱後、シートが冷えないうちに速やかに貼り付ける。  
加熱しすぎると、表面に指の跡がつくので注意が必要。  
シートとシートの重ねは、5cm以上。



転圧

貼付後、ゴムハンマー等を用い、転圧を行う。特に、シートの両端に浮き上がりが無いよう、注意する。シートが冷め、靴跡が着かない状態になれば踏圧も可能。

## 点検



点検

シートの浮き上がりが無いかを確認し、浮いた部分があれば鎌などを用いて持ち上げ、家庭用バーナーなどを用いてシート裏面を加熱し、再圧着を行う。

## 完了



施工完了

## 補足1(重ね部分の加熱処理)



重ね部分の加熱処理

目地バリシートの表層には、サンドが付着しているため、重ねて貼り付ける前に、表層を加熱し、付着しやすい状態にすることが必要となる。また、貼付後は、しっかりと圧着する。

## 補足2(カーブの処理)



カーブの処理

急カーブのある現場では、そのまま貼り付けると皺や浮き上がりが発生する恐れがあるため、カーブにあわせて短くカットし、重ねて貼り付ける。

# 目地バリシート施工上の注意点

## 前処理の選択

現場条件に応じて、必要な処理を選択する。  
( )内の番号はマニュアルの番号に対応。

- 目地部分から雑草が発生している。  
⇒除草(②)、抜根除草(③)が必要  
⇒発生している雑草が、チガヤ、ヨモギ、スギナ、ヨシなどの  
地下茎を持つ多年生の雑草である。(※)  
⇒目地バリセメント充填(⑤)
- 目地部分に土が堆積している。  
⇒目地堆積物の処理(③)が必要
- 目地の隙間が10mm以上開いている、または、目地を境に段差がある。  
⇒目地バリセメント充填(⑤)
- 路面に凹凸や窪みがある。  
⇒路面のセメント処理(⑥)

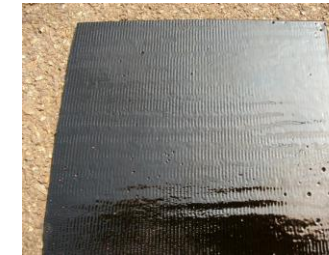
※イタドリ、オオイタドリが生育している場合は、事前の除草剤処理が必要

## 加熱の目安

目地バリシートは気温に応じて加熱時間が異なるため、どの程度まで加熱するのかを知ることが重要。加熱状態は、シート裏面の離形紙の跡や表面の状態で判断する。



加熱前の状態。  
剥がした離形紙の跡が  
残っている。この跡が見  
えなくなるまで加熱する。



①加熱不足の状態。  
離形紙の跡がまだ残っ  
て見えている。



②適度に加熱した状態。  
離形紙の跡が見えなく  
なり、表面が飴状となっ  
ている。



③加熱しすぎの状態。  
シート部分から炎があ  
がっている。内部の防草  
シートの溶融の恐れあり。

一度消えた離形紙の跡はシートが冷めても再び現れることはないため、シート貼付の際には、②の状態まで加熱したら速やかに貼り付けることが重要。

※特に冬季の施工の際は、プライマー塗布前に、あらかじめ路面をバーナーで暖めておくことで、プライマーの養生時間の短縮や、目地バリシートがより付着しやすい状態になる。

## プライマーPR1-5L/15Lの養生

プライマーの養生が不十分だと、揮発しきっていない溶剤により、目地バリシートの改質アスファルト部分に悪影響が出る恐れがある。



### プライマーによる悪影響の例

プライマーの溶剤の影響で、改質アスファルト部分が変質・軟化し、改質アスファルト部分を雑草が貫通。剥がす際に、改質アスファルトが長く伸び、防草シート層と改質アスファルト層の剥離が見られる。



### 施工面の窪み

プライマーを大量に塗布すると、この部分にプライマーが溜まり、養生不良になりやすい。窪みのある場合は事前にセメント等を充填するなどの処理が必要。



### 乾燥確認

目地バリシート貼付前に、溶剤が完全に揮発したか、確認を行う。目安の養生時間を過ぎても、塗布量や気温によっては乾燥しきっていない場合もあるので注意。

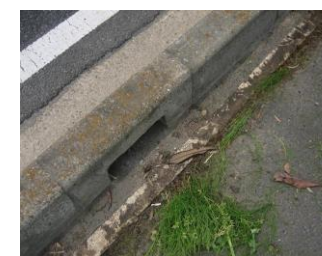
### プライマーの塗布について

プライマーはそれ自体が接着力を持つのではなく、施工面を目地バリシートが付着しやすくするための資材である。そのため、厚く塗りすぎても効果はなく、全体に均一に塗布することが重要である。塗布後は溶剤の揮発のため、目安として、夏期は20分～、気温の低い冬期は40分～の養生が必要となる。

## 補修方法

施工後、目地バリシートの浮き上がりや剥離、雑草の発生があった場合は以下の方法にて補修を行う。

目地バリシートの貼りなおし



1. シートを切り取り、路面からはがし、目地部分など雑草を除去する。



2. 路面を金ブラシ等を使用して研磨する。(こびりついた土などの除去)



3. 路面の清掃  
(接着不良の要因となる砂埃の除去)



4. プライマーPR1-5L/15Lの塗布  
塗布後、十分に時間を置き、完全に乾燥させる。



5. 必要な長さにカットした目地バリシートの裏面を、バーナーで加熱する。



6. 加熱後、路面に貼り付け、特に端部を充分に転圧する。

※端部の浮き上がり等、軽微な補修で済む場合は、マニュアル⑫の方法を参照